

かんしゃ

四年菊組 倉林 優奈

私は、今年の一月、自転車に乗っている時に左足が車りんにはさまって転んでしまい、病院で何はりもぬうケガをしてしまった。その時すぐには、わかりませんでした。アキレスけんが見えるぐらい皮ふが切れていた様です。立っている時はもちろん、すわっている時やねている時もとにかくいたくて、これから本当に歩ける様になるのか、習い事のバレエやプール、体そうが今までと同じ様に出来るのか、ふ安な気持ちでいっぱいでした。ケガをしたことで、まわりの家族、学校の先生方、クラスのみんなにめいわくをかけてしまいました。ケガをしてからは、学校の登下校が一番大へんでした。少しの動でも、自分でうまく歩けないため、お母さんにおんぶをしてもらったり、お父さんに毎朝会社に行く前に学校まで送ってもらったりしました。さらにそれだけではなくお母さんに学校まで

むかえに来てもらい、その足で、毎日病院に  
リハビリをするため送ってもらいました。ク  
ラスのみんなには、松葉づえを持ってもらっ  
たりいろいろなお手つだいをしてもらいまし  
た。また、先生方には、ランドセルではなく  
リュックサックやかわぐつではなくスニーカー  
で登校をゆるしてもらいました。こうしたま  
わりのみんなのおかげで、一日も休まずに学  
校に通えたのだと思います。こころからかん  
しゃしています。

その中でも、一番かんしゃの気持ちでい  
ぱいなのが、お母さんです。ふだん、家事や  
お弁当作り、仕事のこととで頭の中がいっぱい  
で、その上私のことにもたくさん時間を使  
ってくれているお母さんの大へんさに、ケが  
を通ってあらためて気づかされました。

お母さんの大へんさがわかって、少しでも  
ゆっくりさせてあげたいと思い、これからは  
今までの上にお手つだいをたくさんしたいと  
思います。その中でも毎日つづけたいことが

二つあります。まず一つ目は、せんたく物を  
たたむことです。お母さんは、あまり上手に  
たたんでいるひまがなさそうなので、お手つ  
だいをしてあげれば、ゆっくりでできるかなと  
思いました。二つ目は、習い事に行く時に、  
いっしょについてきてもらっているので、行  
き帰りのどちらかを、自分一人にしてみよう  
と思います。

少しでも、お母さんの役に立て、今まで  
の私よりすすんでお手つだいをして、成長し

た私になり、お母さんをよろこばせてあげた  
いです。そして、今まで毎日大へんだ。たお  
母さんへのおんがえしの気持ちも毎日もって、  
いれるようにしたいです。これからもお世話  
になるお母さんのために。ありがとう。これ  
からもよろしくおねがいます。